

## 研究助成候補者募集(平成22年度)

**研究助成の趣旨**：老人性疾患の代謝異常をめぐる臨床的課題（臨床に関連した基礎的研究も含む）を採り上げて検索を進める研究団体・機関又は個人の研究に対して助成金を交付し、これをとおして国民の保健・衛生の一層の向上に貢献しようとするものであります。

**公募課題**：前記の趣旨に沿う研究のうち平成22年度は次の課題に対して助成金を交付します。

**特定課題（採用1件）**

メタボリックシンドローム

平成22～24年度課題：メタボリックシンドロームの疫学と予防対策

**助成の金額**：特定課題 1件年間1,000万円以内（連続3年交付）

ただし、研究助成金は主として薬品代・動物代・検査代・その他研究推進に必要な経費とします。

**応募手続**：当財団所定の申込用紙に必要事項を記入の上、お送り下さい。

受付期限 平成22年2月26日(金)(当日消印有効)

申込用紙請求先 E-mail : Matsukawa\_Mitsuji@takeda.co.jp

申込用紙提出先

〒540-8645大阪市中央区道修町4-1-1武田薬品工業内

財団法人 代謝異常治療研究基金 事務局

電話 (06)6204-2700 FAX (06)6204-2261

**審査方法及び通知**：当財団の助成金交付審査会において審査のうえ決定し、結果は平成22年7月初旬に事務局から各応募者に通知します。

なお、採否に関する問い合わせには応じられません。

※申請された個人情報、助成活動以外には使用いたしません。

**助成金交付期日**：平成22年7月及び10月の2期に分けて交付します（主務官庁の承認を条件とします）。

(裏面に特定課題設定の趣旨についての記載があります。)

**特定課題**：特定課題は、注目される課題を特定し、わが国で当該分野における精力的な活動を行っている研究者の研究を推進することを主たる目的とし、その研究成果が広く一般臨床家に活用されることを期待するものであります。本年度募集の特定課題を設定した趣旨は次の通りです。

**特定課題** メタボリックシンドローム

**平成22～24年度：メタボリックシンドロームの疫学と予防対策**

わが国では動脈硬化症に起因する心血管と脳血管の疾患は死因統計上約30%に達し、癌をしのいで第1位となり、大きな課題となっている。1980年前半まで、動脈硬化症を引き起こす危険因子である生活習慣病の三大要素である高血圧・糖尿病・高脂血症（脂質異常症）と肥満はほぼ同時進行で悪化の過程をたどるが、あくまでも個別の事象であるとの見方が主流であった。その後、蓄積された内臓脂肪がその基盤にあるとする研究が活発化し、内臓脂肪型肥満に代表される脂肪分布の異常がアディポサイトカインなどを誘引し、糖代謝、脂質代謝、血圧の調節に関わるさまざまな生理活性物質の異常をもたらし、糖尿病、高脂血症、高血圧を誘発し、動脈硬化を引き起こすことが次第に明らかになりつつある。そして、1998年WHOが、種々の代謝病が偶然に重複するのではなく、疾患が重複する共通の分子基盤、分子病態の存在を想定し、偶発的な危険因子の重複とは一線を画した病態概念として「メタボリックシンドローム」という名称とその診断基準を発表、わが国においても2005年日本動脈硬化学会はじめ関係8学会が“飽食と機械文明、車社会のなかで必然的に起こる内臓脂肪の蓄積と、それを基盤にしたインスリン抵抗性および糖代謝異常、脂質代謝異常、高血圧を複数合併するマルチプルリスクファクター症候群で、動脈硬化になりやすい病態”と定義した上でわが国における診断基準を提示し、現在医学界のみならず社会全体で注目されている。厚生労働省は生活習慣病の予防に向けた事業を展開しているが、2008年からこのメタボリックシンドロームを重視し、これに焦点を当てた新しい特定健康診査ならびに特定保健指導を開始した。

このような背景から、メタボリックシンドロームを特定課題として選択し、まだまだ明らかでないその真の病態や対応について、その研究を推進することが急務と考えた。そして第1回は「メタボリックシンドロームの病因・病態の分子生物学」の、第2回は「メタボリックシンドロームの治療戦略」の研究助成を行い、今回は「メタボリックシンドロームの疫学と予防対策」を取り上げた次第である。

集団における健康と疾患に影響を与える要因を探求する疫学は公衆衛生と予防医学への基礎と論理を提供する。そこで、わが国におけるメタボリックシンドロームの疫学的な実態把握は必須であり、それに基づいて予防戦略が確立される。メタボリックシンドロームが、心疾患・脳卒中また癌という死亡率のトップ3に深く関わりがあると想定され、わが国においてはメタボリックシンドロームを制御することが国家施策の一つとなっている。そこで予防においても、疫学的研究成果を踏まえさらに病因・病態の分子生物学的機構を応用した、新たな肥満、高血圧、糖尿病、高脂血症の対策についての研究して行かなければならない。そしてメタボリックシンドロームに対する予防戦略をまとめ、医療関係者にとどまらず国民に提言していきたいと期待している。